

平成27年(2015)5月15日

編集・発行
書学書道史学会
会報委員会

〒166-8531
東京都杉並区和田3-30-22
大学生協学会支援センター内
TEL : (03) 5307-1175

FAX : (03) 5307-1196

メールアドレス :
shogaku@univcoop.or.jp

復興支援と教育活動

中村 伸夫

会報のはじめのページを担当するのは四年ぶりのことです。四年前は東日本大震災の直後のことで、その時は余震が頻発する中、心の動揺をおさえながら「大震災の中で」というテーマで書きました。今その一文を読み返したところですが、本学会の事業にかかわることとしては、刊行を目前にしていた『書学書道史論叢』が、用紙不足という緊急事態に見舞われていることについて最後に触れています。とにかく、あつという間に四年が経過しましたが、残念ながら現地の復興は必ずしも順調に進んでいるわけではなさそうです。以下、本学会の会報の記事としては的外れになりそうですが、復興支援にかかわる教育活動の一例について書くことにします。

私が勤務する筑波大学では、概算要求特別経費事業「多領域と芸術の融合による創造的復興に向けた人材育成プログラムの構築」という東日本大震災の復興支援教育プロジェクトが三年前からはじまっています。今年度が最終年度の四年目となりますが、この三月の末に恒例の評価会が開催され、事業推進の教育組織の長として私も出席しました。評価会では活発な意見が交わされ、教育プロジェクトとしての今後の展望についても話し合われたところです。

この教育プロジェクトは、いわき市、会津若松市、大熊町などの自治体との

連携により、学生を現場に向かわせ、美術やデザインの様々な領域にわたる各種各様の復興支援事業を通して、「繋ぐ力」「突破力」「情報発信力」を備えた人材の育成を目的としています。一昨年は、東日本大震災と原発事故から二年を経過した福島に暮らす人たちの声を記録したドキュメンタリー映画の製作も学生によって行われ、日本各地の映画館や美術館、大学などで公開されています。昨年はドイツのボン大学でも上映され、好評を博しました。また、日本デザイン学会の創造的復興セッションでも、このプログラムによる成果の数々が発表されています。

美術やデザインは、とにかく間口が広く、奥行きも深い、とつともなく茫漠とした領域ですが、現代の社会がこの特殊な領域に対して求めているものは、近年とみに多様化しているように思われます。とりわけ若手の実作者や研究者に求められていることの一つに、作品や論文が展覧会やコンペや学会で顕彰されることは別のこととして、つまり専門領域にかかわる高水準の制作技能や学術知識をふまえたうえで、それらを柔軟な発想で応用し、現代の社会に具体的なカタチで還元できる能力、というものがあるのではないのでしょうか。東日本の復興支援という、社会の現実的課題を前にした本プロジェクトは、文字通りその種の能力が実践的に試されている活動です。

私と同じく筑波大学に勤務する本学会の菅野智明常任理事も、このプロジェクトの一翼を担う事業として、創造的復興・チャレンジ学外演習「福島の書の学びを支援する」を一昨年から企画担当されています。本学の芸術専門学群の書コースの学生と、福島県の現職教員との協働により、学校教育における書写・書道教育の学習に対し、新たな支援策を模索する現場での演習授業です。もちろん絵画や彫刻、陶芸やクラフト、そして建築やプロダクトなど、美術やデザインの多面的な領域にわたり、分野の特性を活かした教育活動も続いています。人材育成の教育活動とはいえ、創造的復興という困難な大事業を進めるための、小さくても確かな力になることをめざした活動でもあります。

(副理事長)

第26回 書学書道史学会大会開催のお知らせ

国内局

今年度の書学書道史学会大会は、10月3日(土)・4日(日)の両日、國學院大學常磐松ホール(東京都渋谷区東)において開催いたします。

詳細および参加申込については、8月下旬に「大会のしおり」として研究発表のレジメとともに案内を差し上げます。また、HPでもお知らせいたします。現時点での概要は以下の通りですので、ご予定おきいただければ幸いです。

○理事会

【10月3日(土)】 11時00分

國學院大學若木タワー(教室未定)

○大会

【10月3日(土)】

12時30分 受付開始 國學院大學常磐松ホール

13時00分 開会式・総会

14時10分 講演「漢隸の完成」(仮題)

國學院大學教授・佐野光一氏

16時00分 研究発表(2・3本)

18時00分 懇親会(於・有栖川宮記念ホール)

【10月4日(日)】

8時40分 受付開始 國學院大學常磐松ホール

9時00分 研究発表(4・5本)

12時00分 記念撮影・昼食

特別展示「國學院大學博物館」參觀

13時30分 研究発表(4本)

16時00分 閉会式

○展示(予定)

10月3日(土)・4日(日)の両日、「國學院大學博物館」にて參觀。

※同博物館学芸員による解説(予定)。

○会場へのアクセス

【渋谷駅から】

・渋谷駅(JR山手線・地下鉄・京王井の頭線・東急各線)から徒歩約13分

・渋谷駅(JR埼京線)新南口から徒歩約10分

・都営バス(渋谷駅東口バスターミナル54番のりば)

03日赤医療センター行「国学院大学前」下車

(運賃180円・IC175円) 【渋谷駅から3番目の停留所、所要時間約10分】

【表参道駅から】

・表参道駅(地下鉄半蔵門線・銀座線・千代田線)

B1出口から徒歩約15分

【恵比寿駅から】

・恵比寿駅(JR山手線・地下鉄日比谷線)から徒歩約15分

・都営バス(恵比寿駅西口ロータリー1番のりば)

06日赤医療センター行「東四丁目」下車

(運賃180円・IC175円) 【恵比寿駅から3番目の停留所、所要時間約10分】

○宿泊施設

役員・会員とともに、各自でご手配下さい。



〈お問い合わせ〉

國學院大學文学部日本文学科

橋本貴朗(橋本研究室)

03・5466・0215

メールアドレス hashinotot@kokugakuin.ac.jp

今年度の「第26回書学書道史学会大会」は、國學院大學(國學院大學常磐松ホール)において、前掲の通り開催されます。研究発表会場は今年も従来通り一室制とし、原則として分科会方式はとりません。若手を含む会員各位多数の積極的な発表を期待いたします。奮ってお申し込み下さい。

記

- ① 発表日時：平成27年10月3日(土)・4日(日)の両日 ※時間帯は前掲参照
- ② 発表時間：各30分(発表20分・質疑応答10分)
- ③ 申込方法：件名を「大会発表申込」として「所属・氏名・連絡先」を明記の上、電子メールにて発表内容の題目とレジメ800字程度の要旨を添付して下さい。
※送信時の件名は必ず「書学書道史学会大会発表申込(氏名)」としてください。
なお、電子メールの使用が困難な場合、以下の国内局までお問い合わせ下さい。
- ④ レジメ：原則としてワープロ(テキスト形式・ワード形式・一太郎形式など可)で作成し、電子メールに添付してご送信下さい。
- ⑤ 発表申込締切：平成27年6月30日(火)必着発表者の決定と連絡：大会での発表者は常任理事会で7月中旬に決定し、採否を個別にご連絡いたします。
- ⑦ 『大会のしおり(レジメ集合含む)』の配布：8月下旬に全会員宛に配布いたします。また、ホームページでも公開いたします。

※大会での発表者については、学会誌『書学書道史研究』第27号(平成28年度秋刊行予定)への論文投稿申込があつたものとして扱われます。改めて学会誌への投稿申込をする必要はありません。

※学会誌論文原稿の投稿締切は、平成28年3月31日です。ただし、原稿掲載の採否は査読委員会決定されます。なお、学会誌関連で不明な点は、大学生協学会支援センター内「編集局」までお問い合わせ下さい。

〔発表申込先〕

【国内局】

〒184-8501

東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学芸術・スポーツ科学系

萱 のり子宛

☎042-329-7258(萱研究室)

メールアドレス nkayal17@u-gakugei.ac.jp



各局報告

国内局

別項でご案内のとおり、國學院大学で本年度大会を開催すべく準備を進めております。今年度も、若手研究発表会の開催予定はありません。要項をご覧のうえ、大会発表への多数のご応募をお待ちいたします。

(国内局長 萱 のり子)

国際局

中国における書の研究は依然として進展めざましく、新たな論考や专著が矢継ぎばやに発表され、意欲的な特別展やシンポジウムも盛んに開催されています。例えば、今年が創立九十周年にあたる北京の故宫博物院では、『石渠宝笈』をテーマにした特別展を開催し、「清明上河図」とともに、「伯遠帖」や「馮承素蘭亭序」などの名品を久しぶりに展示、石鼓館も改修のうえ新規に公開します。国際局では昨年度に引き続き、博物館・美術館で開催される書画に関する特別展・常設展などをはじめとする、さまざまな情報をご案内いたします。また外国からの研究者によるご講演などがありましたら、学会としても広く周知したいと思っておりますので、情報の提供にご協力ください。

(国際局長 富田 淳)

学術局

すでに学会ホームページでお知らせしましたが、四月十一日、独立行政法人科学技術振興機構運営のJ-STAGE(ジェイ・ステージ)に学会誌『書道史研究』二四号(二〇一四年十月十日刊)を掲載いたしました。

一八号までは論文と研究ノート、一九号以降はそれらに加えて抄録

(サマリー)と書評も掲載していますが、本二四号では第二十四回学会大会特別講演と学界展望も掲載しましたので、ご活用ください。

今後も学会誌刊行からほぼ半年後にJ-STAGEで公開できるように努めますとともに、一九号以降の掲載稿の図表についても検索の便を図りたく、検討してまいります。

「J-STAGE」

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/shogakushodoshi-char/ja/>

(学術局長 森岡 隆)

研究局

会報二十八号(前号)に紹介致しました通り、花園大学での総会において承認されました、平成二十七年「特定領域研究促進助成金制度」募集要項を、昨年十月十日に本学会ホームページにアップしました。特に「研究計画書」を簡素化(A4で4頁)し、申込受付期間を一週間に延長しましたので、会員各位(特に学生会員)はどうぞ奮ってご応募下さい。

■ 申請受付期間:平成二十七年六月一日(月)～六月七日(日)

■ 詳細はホームページの募集要項をダウンロード(Word形式)してご覧下さい。

■ 問い合わせ先:shogaku@univcoop.or.jp

■ 問い合わせ方法: Eメールのみ(平成二十七年「度特研助成問い合わせ」とご記入下さい。)

(研究局長 河内 利治)

編集局では、昨年と同じく十月初めの刊行をめざして、学会誌『書道史研究』の編集作業に入りました。今号では、例年のように査読を経て採用となった投稿論文・研究ノートの他に、昨年秋の花園大学の大会で開催された特別企画のシンポジウムについて出来るだけ詳しく紹介する予定です。前号から新たに企画した「学会展望」については、今号は日本書道史関連の研究動向に関する記事の掲載を準備中です。また、懸案となっていました論文等の執筆者の所属機関等の記載については、巻末に「執筆者一覧」の枠をもうけて一括掲載することが、先般四月十九日に大東文化会館で開かれた常任理事会で確認されました。なお、「投稿規定・執筆要領」については、一部改訂のうえ、本学会のホームページのトップのインフォメーションの欄に、新たに『書道史研究』投稿規定・執筆要領の項目を設けることになっています。学会誌の編集に関するご意見やご質問は、中村または菅野智明副編集局長宛てにお寄せください。

(編集局長 中村 伸夫)

事務局・会報委員

〔平成27年度事業・活動計画(案)〕

本来ならば、総会にて承認されるものです。おおよその目安として、ここに提示します。変更等も十分ありえますので、ご注意ください。

- 4月19日 第13期第2回常任理事会
- 5月15日 第29号《会報》発行及び発送
- 6月30日 第26回大会発表申込締切
- 7月12日 第13期第3回常任理事会
- 第58回(臨時)理事会

8月下旬

《大会最終案内》

8月下旬

《大会レジュメ集》発行及び発送

10月初旬

平成26年度決算会計監査

10月3日

第25号『書道史研究』発行及び発送

10月4日

第59回定例理事会(於國學院大學)

12月31日

第26回大会1日目(於國學院大學)

1月15日

第26回大会2日目(於國學院大學)

3月31日

第26号『書道史研究』投稿申請申込締切

※選挙の告示、投票等

※第14期新役員顔合わせ

(事務局長・会報委員会委員長 高城 弘一)

新入会員紹介

事務局

〈一般会員〉

水田有咲 樟蔭中学校高等学校講師

〈学生会員〉

前田耕作 筑波大学大学院生

陸 宇晴 大東文化大学院生

郭 梓瑩 大東文化大学院生

船田聖也 大東文化大学院生

張 宇寧 大東文化大学院生

山下敬起 大東文化大学院生

安藤喜紀 大東文化大学院生

陳 侶佐 大東文化大学院生

※平成26年10月〜平成27年4月に申請された方

◆年会費について

本号に年会費納入用の郵便振替用紙が同封されています。年会費納入は、6月末日までにご納入ください。なお、平成27年3月現在、会費を滞納している方には、本年度分に滞納年度分を加算した金額が記載されております。速やかに全額をご納入ください。また、3年以上滞納の方は、すでに導入されている「長期会費滞納者の自動退会(除籍)制」の適用対象となります。ただし、退会(除籍)適用対象者となった場合であっても、退会届提出の年度分までの合算額における学生会費の請求権は消滅しません。本件に関して、会員台帳別表にて管理の上、適宜納入請求を続けることが総会にて決定されていますので、予めご了承ください。

◆学生会員の「会員変更手続き」について

本学会では、学生会員の「有期会員制」を導入しています。この制度は学生会員(学生会費適用の方)が大学院を修了、または満期退学・中途退学、その他の理由により学籍を失った時(学生証の発給対象でなくなった時)に、「学生会員資格終了」とするものです。該当の方で、引き続き一般会員として留まる場合、必ず会員変更手続き(「会員変更申込書」の提出)が必要です。とりわけ、今春に学生会員資格を失った方は、至急手続きをお願いします。「会員変更申込書」は、学会ホームページからダウンロードできます。会員変更手続きにより、自動的に一般会員資格が付与されます。なお、「会員変更申込書」下の「紹介会員氏名」「役員推薦氏名」「理事会承認」各欄は、無記入で結構です。「会員変更手続き」を含め、その他の問合せや書類送付先は、本会報一面の事務局(大学生協学会支援センター内 担当・井手富士雄メールアドレス:stnoga@unicoo.p.or.jp)へお問い合わせください。

◆会員名簿発行に伴う情報提供のお願い

昨年度の総会において、会員名簿発行が承認されました。個人情報保護の観点から、個人情報の取得や管理についての取り扱いについては、事務局(大学生協学会支援センター内)と十分協議をしています。同封の依頼書にしたがって、情報提供をお願いします。

◆賛助会員団体名のホームページ掲載について

賛助会員のうち、法人名等を除いて団体名のみをホームページに掲載させていただきます。承諾12団体になります。それに伴い、サイトトップページの「インフォメーション」に「賛助会員(平成27年4月時点)」の項が付加されました。

さまざまな最新情報は、随時、ホームページを更新し発信します。どうぞホームページをご活用ください。

◆次回理事会のお知らせ

過日(平成27年4月19日)開催の常任理事会において、第13期第3回常任理事会および第58回(臨時)理事会を7月12日(日)に開催することが決定しました(常任理事会13時から、理事会15時から)。役員各位におかれましては、何とぞご出席くださいますよう、今のうちに「予定おきいただきたくお願いします」。

なお、開催場所については、大東文化会館(東京都内・最寄駅・東武東上線東武練馬駅)を予定しておりますが、詳細が決定次第、改めてメールにて「ご案内を差し上げます」。

本会会員の採択課題に限ったが、会員が分担研究者で、代表者が非会員である場合には、※を付して代表者を末尾に付記した。複数の会員が関わる同課題については、当該課題のもとに代表者と分担研究者とを併記した。なお、所属の後の数字は、平成26年度のみ補助金の配分額。計画額には※を付した。

基盤研究(A) 継続(平成22) 石刻史料と史料批判による魏晋南北朝史の基本問題の再検討 福原啓郎(京都外国語大学) ※代表:伊藤敏雄(大阪教育大学) 4,030千円

基盤研究(A) 継続(平成23) 漢字文化圏における典籍の集積、国際的伝播及びその伝承に関する実証的研究 赤尾栄慶(京都国立博物館) ※代表:石塚晴通(北海道大学) 12,740千円

基盤研究(B) 継続(平成23) 金剛寺所蔵典籍の集約的調査と研究―聖教の形成と伝播把握を基軸として 赤尾栄慶(京都国立博物館) ※代表:後藤昭雄(成城大学) 6,110千円

基盤研究(B) 継続(平成23) 東アジアに展開した儒教文化の視覚イメージに関する復元研究 菅野智明(筑波大学) ※代表:柴田良貴(筑波大学) 2,730千円

基盤研究(B) 継続(平成23) 学習基盤の形成を促進する書字力育成プログラムの開発 鈴木慶子(長崎大学) 2,860千円

基盤研究(B) 継続(平成23) 日中校勘学発展と相関をめぐる複合的研究 近藤浩之(北海道大学) ※代表:水上雅晴(琉球大学) 1,820千円

基盤研究(B) 継続(平成24) 日中比較による書学資料の文献学的研究 菅野智明(筑波大学) 3,900千円

基盤研究(B) 継続(平成24) 中国道教の地理的イメージと宗教的ネットワークに関する総合的調査と研究 土屋昌明(専修大学) 4,160千円

基盤研究(B) 継続(平成25) 前近代中国における交通路と開津の環境史的研究 福原啓郎(京都外国語大学) 4,260千円

基盤研究(B) 新規 概念表現と実体化表現から見た中国語文法史の展開―構文と文法範疇の相関的変遷の解明 大西克也(東京大学) 5,200千円

基盤研究(C) 継続(平成23) 書字困難児の早期支援プログラムの開発 齋木久美(茨城大学) ※代表:勝二博亮(茨城大学) 1,360千円 *

基盤研究(C) 継続(平成23) 中世書論に基づく日本書道史の再構築 永由徳夫(群馬大学) 910千円 *

基盤研究(C) 継続(平成23) 本阿弥光悦筆和歌巻の特徴解明と伝光悦筆和歌巻の真贋鑑定法の確立 森岡隆(筑波大学) 2,040千円 *

基盤研究(C) 継続(平成24) 中国西周時代昭王期の金文研究 古木誠彦(九州女子大学) 390千円 *

基盤研究(C) 継続(平成24) 書字学習における幼小連携を円滑にする教材の開発 齋木久美(茨城大学) 390千円 *

基盤研究(C) 継続(平成24) 戦国秦漢簡牘文字の多様性と変遷に関する実証的研究 福田哲之(島根大学) 800千円 *

基盤研究(C) 継続(平成25) 「言語力」と「コミュニケーション能力」を育成する書字教育カリキュラムの開発 青山浩之(横浜国立大学) 1,040千円 *

基盤研究(C) 継続(平成25) 『近世後期讃岐・阿淡の書道文化―儒学者のかかわりを中心に―』 太田剛(四国大学) 520千円 *

基盤研究(C) 継続(平成25) 『季卓吾先生批評三國志』諸本の研究 中川論(大東文化大学) 780千円 *

基盤研究(C) 継続(平成25) 隸書再発見のメカニズム―中国中期の石刻資料を端緒として― 東賢司(愛媛大学) 1,050千円 *

基盤研究(C) 継続(平成25) 小・中学校国語科書写における書字過程に着目した硬筆楷書教材開発及び授業開発 樋口咲子(千葉大学) 390千円 *

基盤研究(C) 新規 北朝末隋代墓誌中に混在する自律的刻法の楷書新表現に関する基礎的研究 澤田雅弘(大東文化大学) 1,170千円

挑戦的萌芽研究 継続(平成25) 「手書き」が培うリテラシーに関する研究を推進するための基礎調査 鈴木慶子(長崎大学) 650千円 *

挑戦的萌芽研究 新規 日本流入の中国書画に関する新旧収蔵家ネットワークの復元的研究 菅野智明(筑波大学) 1,300千円

挑戦的萌芽研究 新規 唐宋時代の「巡礼」と移動をめぐる社会的的研究―氣賀澤保規(明治大学) 1,480千円

挑戦的萌芽研究 新規 近代書道史の再構築―美術の制度化を視野に入れて― 中村史朗(滋賀大学) 680千円

若手研究(B) 継続(平成25) 中国明末期書画論の基礎的研究―董其昌理論の変遷を基軸として― 尾川明徳(安田女子大学) 650千円 *

若手研究(B) 継続(平成25) シンセ病患者回復者による芸術文化活動の意味と芸術性 金貴粉(大阪経済法科大学) 910千円 *

※平成27年度研究費本関係者採択一覽では、自己申告いただいた場合のみ掲載します。

書写・書道教育に関する要望書の動向

大村 直子

「書写・書道教育に関する要望書」が二〇一三年六月二十七日に全国書道連盟はじめ六団体連名で文科大臣に提出された。翌年、署名運動を実施し、当初の目標五十万人を大幅に超える九四四、四八三名の署名を得て、同年九月二十四日に文科大臣に提出した。二〇一五年二月五日には、次期学習指導要領改訂をにらみ、前記要望書の「具体的内容」を文科省初等中等教育局長宛に提出。これに関連し、全日本書写書道教育研究会は、小学校低学年への毛筆教育効果を実証するため、研究授業を実施した(『書道美術新聞』二〇一五年二月十五日参照)。水書きの前後での硬筆の変化から、毛筆授業の有効性を実証した。また、教員養成研修への準備も進めている。最新情報は二〇一五年五月以降、書写・書道教育推進協議会(前掲六団体による合同組織)ホームページに公開予定。

印譜の魅力

榎田 瞬一

ここ数年來、日中において印譜の媒介物による公開が進んでいる。

例えば、日本では、東京国立博物館ホームページ上の「印譜データベース」、中国では、西泠印社出版社の『中国印譜史図典』上下冊な

ど。どちらもオールカラーの実に鮮明な画像で、眼福にあずかっている。

しかし、公開の進む一方で、印譜に対する専著の限られる我が国では、その調査研究活動が進展しているとは言い難い。

本邦には稀観印譜を所有する博物館・美術館があり、個人の所有するそれにもまた、見るべきものがある。これらのコレクションを形成した先人たちの印譜に対する情熱と業績を顕彰するためにも、印譜の存在意義や魅力を伝えていかなければならない。

現在、筆者が調査を進めている成田山書道美術館収蔵の印譜を手始めに、斯界の発展に寄与できるような微力ながらも尽力していきたい。

贅沢な時間

志民 和儀

知り合いの編集者から中国土産として書籍を数冊頂いた。そのうち一冊は王石経の印を集めた『西泉印存』である。王石経の印については、戦前に上海から『甄古齋印譜』が、日本では近年に芸文書院『金石書学第十号』、安田女子大の萩信雄先生の『篋齋所用印冊』が刊行されている。萬印楼叢書の一として出版された本書には、はじめて眼にする印影もあり、貧しい蔵書から関連書籍を引っ張り出しながら印影を対校していると、時が経つのを忘れてしまう。また、王石経が刻した落款印から、その交流について調べていくのも楽しい。

雑事に追われる毎日の中で、このような時間の過ごし方を随分と贅沢に感じるようになった今日この頃である。

日々偶感

吉澤 太雅

この四月より高校の非常勤講師として書道の授業を受け持つことになり、公私共々の教場で様々な方に書の技法、考え方や見方を教える際に如何にすれば分かり易く伝わるか、常々悩みます。文字を書いている以上、その句や詩がどんな意味内容なのかに及べば、書法的な指導に限らず日中双方の文学的素養も求められ、いよいよ難解を極めます。また、固定の価値観を押し付け過ぎるのも個人の自由な鑑賞を否定しかねません。

飽和した現代社会のなかで、書を学ぶ意義や書の価値は見直されているように考えます。研究にしろ制作活動にしろ、書に興味関心を持つ若い世代が少なくなることは書に携わる者全体へのマイナスでしょう。書の魅力を伝える重要性を思えば、自己の発言に強い自覚と責任を持たねばと身を引き締める昨今です。

編集 後記

◆青銅器の器形拓本が気になつて資料を読んでいると「馬起鳳が採拓したものはない」とありました。一件所蔵しているのですが本物かな。(小川博章)

◆久々に丸善で万年筆インキを見て、色が豊富で紫陽花という名の品も含め沢山求めてしまった。(柿木原くみ)

◆新緑を感じつつ、根津美術館所蔵の尾形光琳筆「燕子花図屏風」に、散らし書きを重ねての思いにふける、そんなひと時を大切にしたい今日この頃です。(金子馨)

◆遠山記念館での「清水比庵―温かき歌人のまなざし―」展を見学し、作品の個人的なバランス感覚に目を奪われた。どこまでが計算されたものであるか、一点ずつお伺いしたいものである。(野中直之)

◆知り合いの書道愛好者の方々とお話をしていると、勉強になることが多々あります。特に学習者のニーズという点ではとても多様化しているようです。今後はニーズに見合った書の学びの環境作りが大切だと日々感じています。(藤森大雅)

◆二十年前の阪神淡路大震災を契機に、文化財を対象とした被災時の救出・応急措置や平時の防災・減災が見直され始め、東日本大震災以降、その活動は活発になっています。一方、国内外で起こる人災。先人によつて伝えられた財産への破壊行為は見るに堪えません。(六人部克典)

◆東京泉屋博物館分館にて、小川千甕の回顧展を参観。画風の変化が一目瞭然で、自由奔放の晩年の作品群に魅力を感じた。千甕の書にはほとんど注目されなかったのが残念。(高城弘一)